

令和3年度病害虫発生予察情報 注意報第7号

令和3年8月6日
岩手県病害虫防除所

県内各地のりんご園地でハダニ類が多発しています。
園地をよく観察し、要防除水準に達している場合は速やかに防除しましょう。

1. 対象作物、病害虫：りんご、ハダニ類
2. 対象地域：県下全域
3. 発生量：多
4. 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査での目通りでの発生園地率は、ナミハダニが58.1%（平成49.0%）、リンゴハダニが35.5%（平成22.6%）でともに平成より高く、発生程度中以上の園地率は、ナミハダニが38.7%（平成19.4%）、リンゴハダニが16.1%（平成9.0%）でともに平成より高かった（図1）。
- (2) 発生程度中以上の園地率は、7月後半までは概ね平成並に推移し、8月前半に増加した（図2）。
- (3) 向こう1か月（8/7～9/6）の気温は平成より高い予報であり、ハダニ類の増殖に好適な条件である。

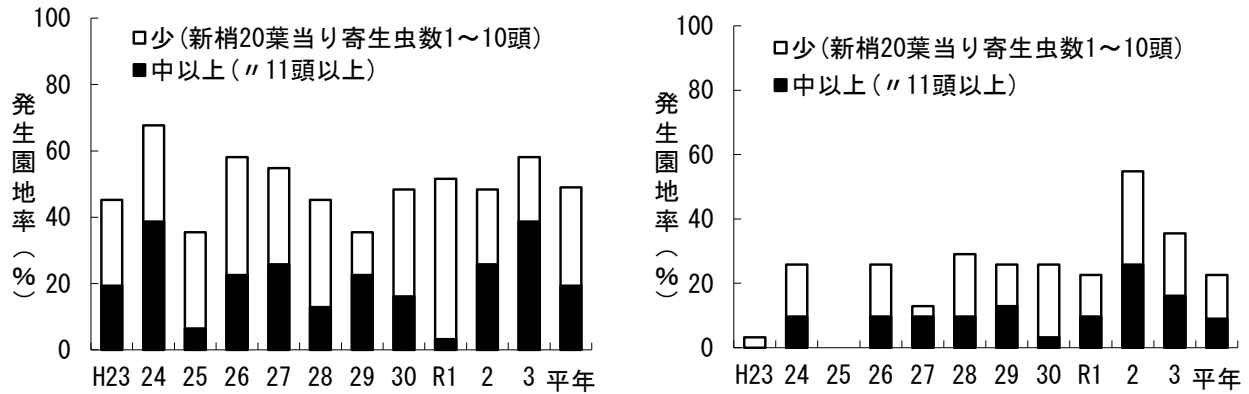


図1 ハダニ類の発生園地率の年次推移（8月前半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）

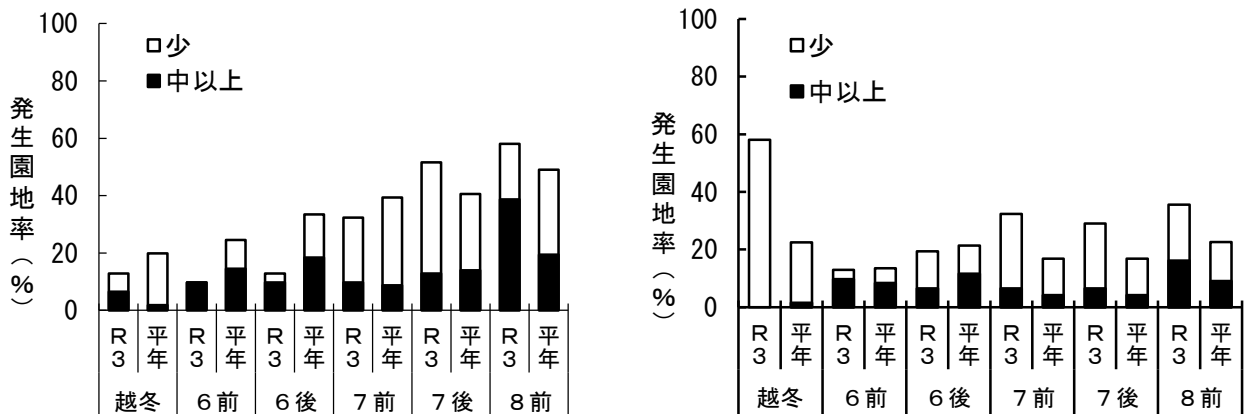
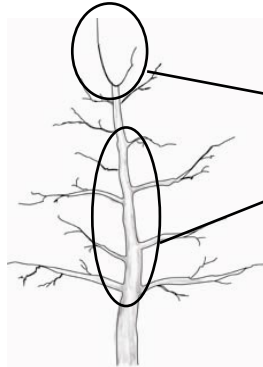


図2 ハダニ類の時期別発生園地率の推移（目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）

5. 防除対策

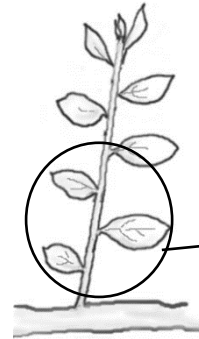
(1) ハダニ類の要防除水準は寄生葉率 30%である。わい性樹では主幹近くの新梢葉、普通樹では主幹・主枝の徒長枝の下位葉を良く観察する。なお、目通りでの発生が少なくても、樹上部で多発している場合があるので、樹上部の徒長枝葉も観察し、要防除水準に達した場合は直ちに防除を実施する。



わい性樹での観察場所

樹上部の徒長枝葉

主幹近くの果叢や新梢



新梢での観察部位

新梢下位葉

- (2) 夏期はハダニ類の増殖が速いので、防除適期を逃がさないよう注意すること。
- (3) 薬剤が樹上部までかかるよう十分量を丁寧に散布する。不要な徒長枝は散布ムラの原因となるので、早めに剪除し薬剤のかかりやすい樹形を維持する。
- (4) 薬剤抵抗性ハダニの発現回避のため、同一系統の薬剤は1シーズン1回の使用に限る。また、複数年を単位とした薬剤のローテーションを遵守する。
- (5) 殺ダニ剤のダニオーテフロアブルは、銅剤との混用により効果の低下が懸念されるため、混用しない。また、近接散布による効果の低下を避けるため、ダニオーテフロアブルの散布から10日以上は銅剤を散布せず、銅剤散布後は1か月以上ダニオーテフロアブルを散布しない。

☆ 農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31) ☆

【利用上の注意】

本資料は、令和3年8月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は(1) 使用基準の遵守(2) 飛散防止(3) 防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

